

兵庫県医師会医療支援チーム（第27陣）「宮城県災害支援現地報告」

小野市加東市医師会 西山 勝人

5月14日より16日まで、医師3名、看護師3名、薬剤師1名、事務局2名から成るチームで、第27陣の医療支援に行って来ました。被災から2か月を過ぎ、現在は慢性期医療の段階に移行していますが、避難所では咳等の呼吸器症状を発症させた方が若干名居られました。

市内では復旧・復興作業の関係も有って、粉塵がかなり舞っていると思われ、咳患者は実際増加傾向だとの事です。実際私も滞在中に喉が痛くなり、マスク、うがい等による喉のケアが大切だと考えます。私共の滞在中には目立たなかったものの、これから気温が上昇するにつれて、食中毒等消化器疾患の増加が懸念されます。瓦礫の片付け中にスズメバチに出くわしたという話も伺っており、今後また新たな疾患が被災地での問題となって来そうです。避難所での受診患者数自体は減少しており（ただ日曜日は、平日の日中は勤務等の関係で避難所に居られない方が受診するからか、かなり多くの方が受診されましたが）、医師会としては支援チームのさらなる縮小、撤退を考えて行く段階かも知れません。しかし自宅が津波で流され、少し離れた避難所に居る方々、特に高齢者にとっては、近隣の診療所を受診しようにも土地勘も無く行き辛い、かといって折角かかり付け医が診療を再開しても、車もお金も津波に流されてしまい、そこまで行く手段が無い、結局避難所での診療が新たなかかり付け医になってしまっている、といった現状が有ります。今後の医療支援活動の在り方として、地元の医療機関へ患者診療を円滑に引き継ぐ事を重視しながらも、兵庫県に住む我々も被災地の方々の傍に居る事を形に示すという意味で、現状よりは縮小しても被災地に居続けるニーズが、まだ有るのかも知れません。